

プラクティスセミナー（共催）

## [PS20]デジタル化で変わる看護ケア！？睡眠が“見える化”されて分かった 新たな気づき 共催：パラマウントベッド株式会社

### [PS20-01][プラクティスセミナー] デジタル化で変わる看護ケア！？ 睡眠が“見える化”されて分かった新たな気づき

○武田 理香<sup>1</sup>、○清水 美紀<sup>1</sup> (1. 聖マリアンナ医科大学病院 看護部)

Keywords:睡眠センサー、アセスメント、非接触モニタリング、呼吸モニタリング、活動量、眠りSCAN

「〇〇号室のAさんが急変です！」

急性期外科病棟では、ICUのように全患者にベッドサイドモニターがないので、日々のモニタリングとアセスメントは非常に重要だ。パラマウントベッド社の睡眠センサー「眠りSCAN®」はマットレスの下に敷くシート状の患者非接触センサーで、得られた情報をステーションのPCモニタで閲覧することができる。呼吸数・心拍数も同時に長期・連続的に取得ができることから活用価値があると考えられ、クリティカルケアを必要とするA病院外科病棟において運用した結果を報告する。

まず、私たちは、患者の現在状態（睡眠中・覚醒中・離床）や蓄積された過去の睡眠/呼吸/心拍の推移を示す睡眠日誌を利用した。次に、睡眠状態と同時に取得できる呼吸数・心拍数の推移を定量的に評価した。その結果、患者が訴えられない苦痛や精神状況を把握することができ、看護師の通常の観察とは違う気づきを得られた。

睡眠の質の低下によるせん妄の発症や離床中のインシデントは、入院日数延長や予後不良のリスクとなる。眠りSCAN®は、入院中の安全確保とQOLの維持、在宅期を見据えたケアを提供するうえでも重要なアセスメントツールとなることが示唆された。

【視聴後アンケート】

<https://media.paramount.co.jp/entryform030-nemuriscan202107/>

